



鬼北町役場本庁別館完成

「木」と「人」のぬくもりを感じる温かい庁舎に

1月5日の仕事始めの日、ついに本庁別館での業務が開始しました。

地元産のヒノキをふんだんに使用し、木の香りが漂う柔らかな雰囲気になった本庁別館。無垢板で仕上げた廊下がぬくもりを感じさせます。さらに特徴の一つと言える丸太を組み合わせた建築技術。今後この庁舎が、現代のその技術を後世へと伝える役目を果たしてくれることでしょう。

また、本庁舎と同じく株式会社レーモンド設計事務所による設計・監理で建てられたこの庁舎には、随所にレーモンド設計独自の特徴が現れています。例えば、天井部に見られるレーモンドトラ



①

スと呼ばれる技巧。その洗練された技術によって、趣ある空間が生み出されました。

さらに天井部には、本庁舎議場のステンドグラスを模したフィルムが貼られ、光が降り注ぐたびに柔らかな色彩が床面に映し出されます。

ローカウターの採用により室内全体が見渡せるようになった執務空間。また、シンボルとして楓の木が設置され、でこぼことしたその独特の様相が存在感を醸し出しています。

そして、奈良川河川敷が見渡せる絶好の場所には町民スペースを設置。待ち時間などのちょっとした空き時間に、ぜひ立ち寄ってみてください。奈良川の景色、そして、春には満開の桜が見える絶好のポイントに心癒されることでしょう。



- ①_ 水道課・環境保全課・建設課を配置。ローカウンターを使用することで執務空間全体が見渡せ、圧迫感を感じさせない空間となっている
- ②_ 本庁舎議場のステンドグラスを模したもの。ここから色鮮やかな採光が降り注ぐ
- ③_ レーモンドトラスの技巧が施された天井部
- ④_ 奈良川河川敷側から見た別館。本庁舎との関連性を感じられるデザインとなっている
- ⑤_ 町民スペース。憩いの場として、ここから四季折々の河川敷の景色を楽しむことができる
- ⑥_ 産業課・農業員会を配置。こちらもローカウンターを使用
- ⑦_ 本庁別館のシンボルとも言える楓の木を使った柱。樹齢250年と言われている